



自分が理解できて、
自分が「できる」
と思ってない
ことがしたい。

前編

スペース クリエイター

山田 貴之

～目次～

- 狭くなりたくはないんですよ。
- デザインというのは可能性や発想を提供すること。設計は責任がある上での決断や指針を示すこと
- 実は一度も正社員で働いていないんですよ（笑）
- 個人で切り盛りする限界を感じたんです。

狭くなりたくはないんですよ。

建築家の世界はどうしても固くなりがちです。「自分が正しいと思うこと」「正解だと思うこと」を提案することの繰り返し。自分の理解できる範囲で、垣根の中で仕事をしている。

だけど自分ができる範囲って、実はとても狭いんじゃないかなと思っています。想像し得ないよう
なずっと向こうに、実は可能性が広がっているんじゃないか。だから狭くなりたくない。自分が理
解できて、自分が「できる」と思ってないことがしたい。

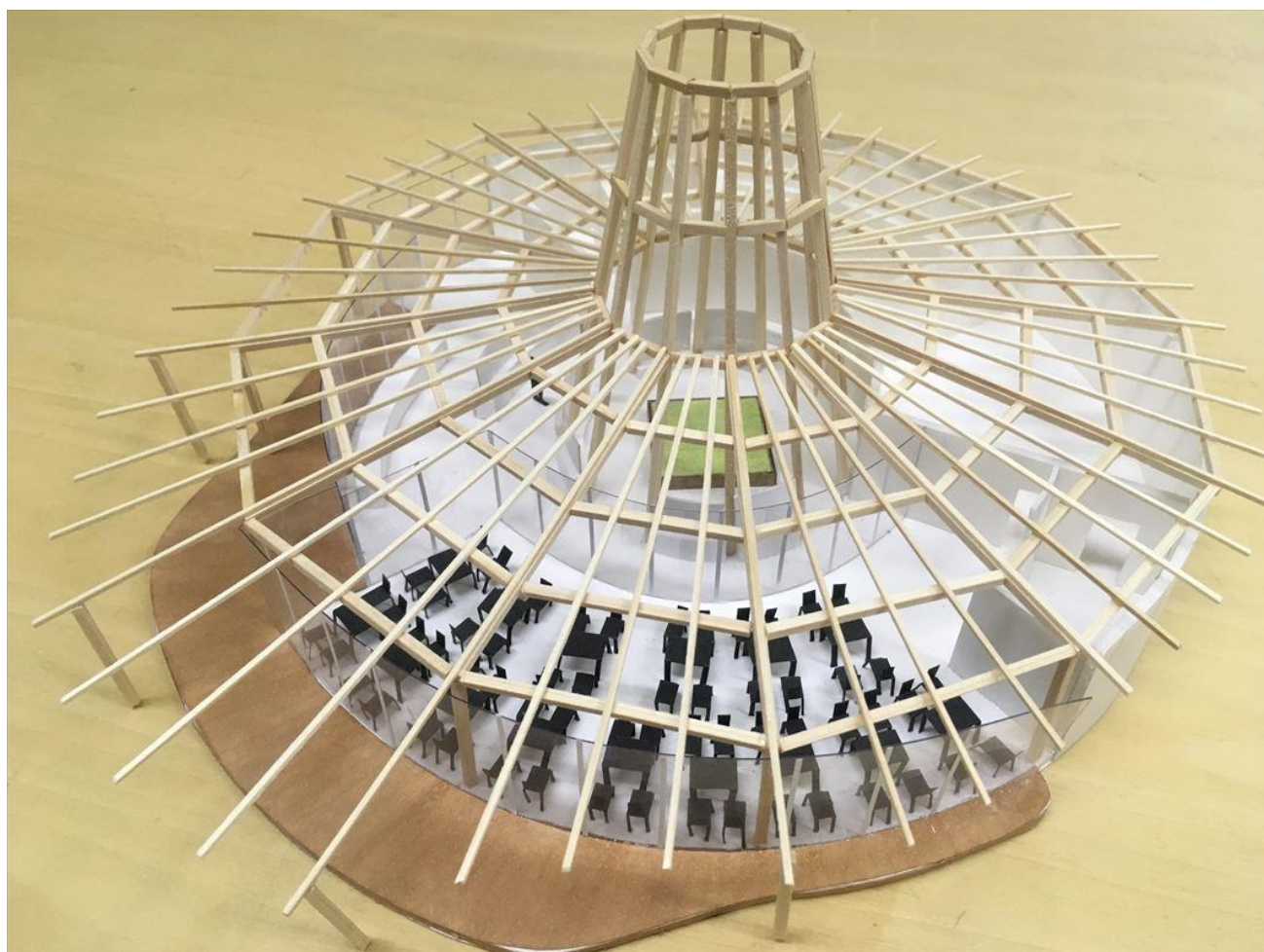
ずっと、もどかしく思っていました。建築設計の仕事をして、いつかは「あとはよろしくね」と

引き渡し、手放すしかない。使い手の意見を聞いて、より良くアップデートできるような機会はなかなかありません。

TONZAKO デザインでは、建築設計よりずっと前段階から仕事が始まります。事業計画から練り、建築とランドスケープをトータルで設計&提案。そして運用後には手厚いフォローで使い切る所までトータルに提案できます。

専門領域が異なる3人から出てくる企画案は「意外」の連続。その相乗効果で自由な発想がどんどん加速します。

- 建築設計
- ランドスケープ
- 事業デザイン



この3つが絡まりながら、プロジェクトごとに変化します。3つを隔てる垣根はありません。専門範囲が異なる4人だからできること。4人の個性の賜物です。

デザインというのは可能性や発想を提供すること 設計は責任がある上での決断や指針を示すこと

自分は「設計する人」だと認識しています。クリエイターはもっと広い範囲で仕事する人を指すイメージ。設計に特化したクリエイターっていうのが今の状態かな。



設計とは何か。それは「決める」ことかなと最近は思っています。最終決断をするのはお客様。お客様が決断しなきゃいけないことはたくさんあります。お客様が自信を持って決断できるよう、設計はそっと導いてあげる。情報提供とは少し違います。そしてあんまり強引に導くと、色んな問題が生じます（苦笑）。

「設計」を英訳すると「desing」ですが、2つの言葉は同じ意味ではありません。デザインとは可能性を形にすること。より良い発想を相手に提供するのがデザイン。設計とは、責任を負って指針を提示することかな。指針を示し、相手方に納得してもらえるように根拠の筋が通っている。それが大事な気がしますね。

TONZAKO デザインは、設計もデザインも手がける集団。提供できる範囲が広く、デザインの前段階から創っていけるのが強み。一度形にしたことも、その後、柔軟に変化し続けられます。

実は一度も正社員で働いていないんですよ(笑)

大学は建築学科を卒業しました。実は特別に憧れていた業界でもなく(笑)。高校時代に自分がやれることを考えたら一番ここが良いのかなと。授業で一番面白かったのは設計の授業。与えられた課題に対し、解決するためのアイデアを練り、提案して、図面を書いて、広くプレゼンして。今やっている事の始まりですね。全てここから始まった感じです。

就職はさっぱり(笑)。先生からは「設計事務所に行くなら東京へ行け」と言われたものの、それも嫌だったので。とりあえず卒業後は半年ひと休みして、それから名古屋の設計事務所で1年間アルバイトをしました。もっと大規模物件を経験してみたかったです。

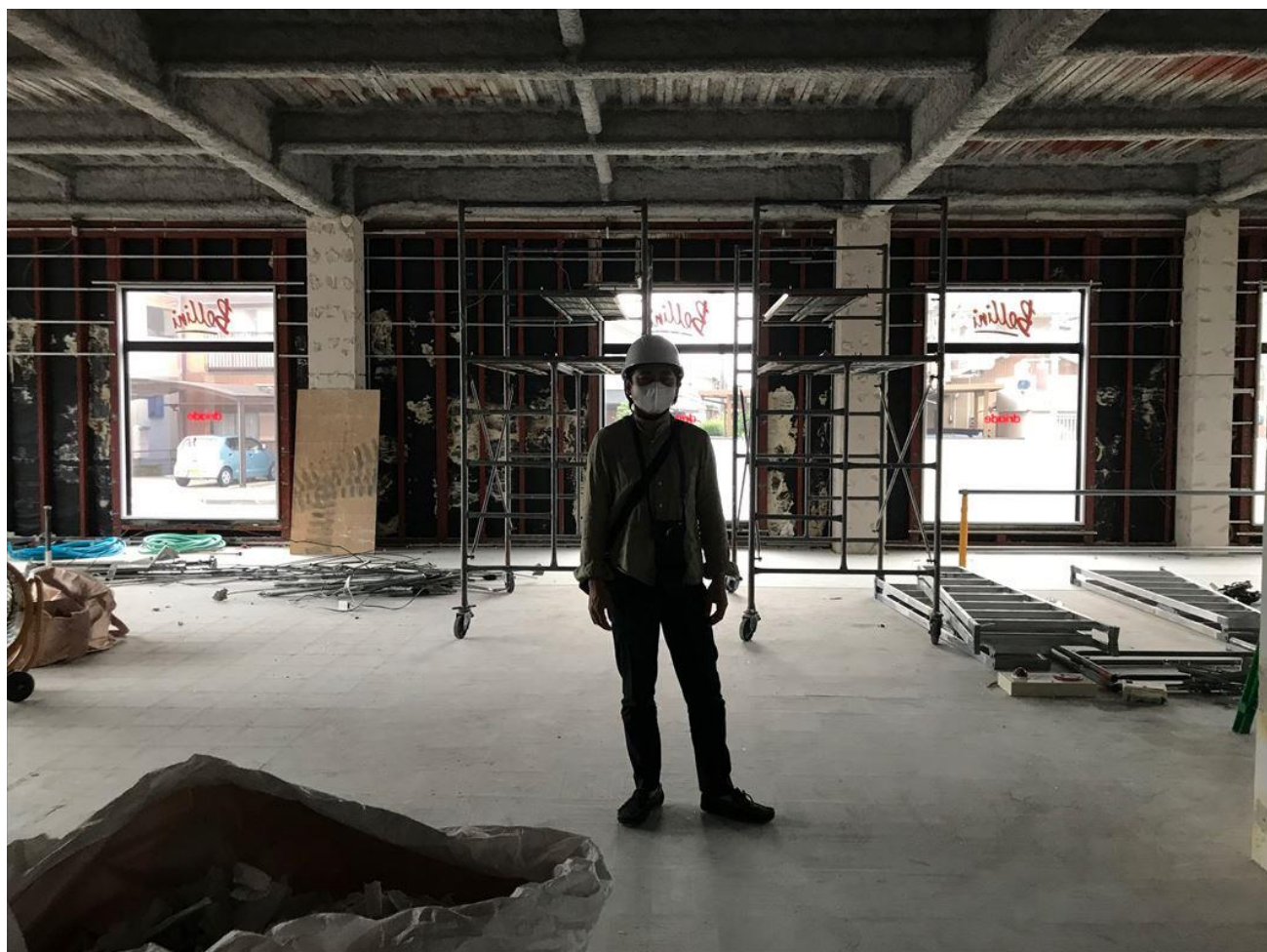
当時は大手設計事務所でも、個人が外部スタッフとして出入りできていた時代でした。それで大手事務所の外部スタッフに潜り込み(笑)、さまざまな物件に係わることに。4年ほど、大きな物件を経験させてもらいました。そのころ、同じ事務所に出入りしていた先輩と一緒に住宅設計も開始。それから一級建築士の資格を取り、2年ほど在宅で仕事を請け負うことに。やがて独立し自分の事務所「山田貴之建築設計事務所」を開きました。結局、一度も正社員で働くことなく独立しました。

独立後に前職の事務所から「戻ってきて欲しい。2年ぐらい腰を据えて仕事してみないか」と声をかけていただきました。それが都市のとても大きな公園施設。これは大きなチャンス、将来は子どもにも自慢できるような仕事でした。文字通り寝ずに働き、着工寸前まで漕ぎ着けたものの、政治的な事情から企画は大幅変更。結局仕事は立ち消えになりました。悔しかったですね。

個人で切り盛りする限界を感じたんです。

立ち消えになった公園施設の仕事は、今から 10 年前のこと。当時の経験や人脈が今に繋がっています。松崎と出会ったのも、この仕事の時。松崎は当時ランドスケープの会社に勤めていて、それぞれの立場から同じ物件と一緒に手がけました。第一印象は、不思議と気が合う感じ。仕事が終わした後もお互いに連絡を取り合う関係になり、「また一緒に仕事をしよう」とよく話をしました。松崎はその後、ランドスケープ設計の会社を興していました。

自分は事務所を法人化するタイミングを探していました。松崎からはずっと声をかけてもらっていたし、数年前には松崎の会社と一緒に仕事したこともありましたが、自分の事務所が終わってしまうのは嫌だけど、何か新しいものが生まれるのなら、変化しても良いかなと思っていました。



そんな風に思っていた 2018 年の 1 月。連日の激務がたたリ僕は倒れてしまいました。幸い 1 週間で職場復帰できましたが、個人で切り盛りする限界を感じました。以前から松崎が声をかけてくれたこと、そのころ小森も加わり「3 人でやろう」と話が進展したこと、さらに倉方も加わり……。これは面白くなりそうだと思いました。そして 2019 年 1 月に TONZAKO デザインを設立しました。

仕事の内容は以前と今では随分と変わりました。変えたい気持ちがありました。周りを見渡すと個人で設計している人はたくさんいる。その外部メンバーを繋げ、自分が設計者としてだけでなく調整役として事業を進行させたいと思っています。



自分が理解できて、
自分が「できる」
と思ってない
ことがしたい。

後編

スペース クリエイター

山田 貴之

～目次～

- 絶対いいと思ったものが覆されることの連続
- 表現することに喜びがある、困りごと解決も
- 家族だからといって全てを強要しない、知ろうとしない。
- 10年後も相変わらずやっていることは同じ
- 今は人が動けない状況だけど、絶対に動き出す

絶対いいと思ったものが覆されることの連続

小森とは TONZAKO デザインの設立をきっかけに出会いました。松崎と小森、倉方の3人は長い付き合いだったようです。小森の第一印象は「信頼できる人」。僕は以前、別の設計者と2人で事業をしたことがあり、その時は上手くやれなかった経験があります。それ以来、誰かと事業することに葛藤がありましたが、今回 TONZAKO デザインに参画したのは小森という異色の第三者がいたからです。

環境デザインに長く携わってきた小森が事業計画書を書くと、僕ら建築設計の人間が考えるものと全く違います。視点が違う。異なるジャンルの方と意見を交えるって、すごく大切だと気づきました。

表現することに喜びがある、困りごと解決も

建築をやりたいわけじゃなんです。いや好きですけど建築は（笑）。表現すること全般に興味があります。TONZAKO デザインでは設計だけではなく、様々なことに係っています。植栽も緑化も興味があり、接客やイベント開催も興味があります。表現すること全般に喜びや達成感、充実感があります。



以前、人から言われたのが「改修など、困りごとを解決するのが得意なタイプなのでは？」と。意識してなかったけど、多分そうなんだと思います。難題に立ち向かうというのは好きです。

これから意識して挑戦していきたいのは、表現する、創っていくことに、力を入れていきたい。より広い範囲のことをやりたいと思っても、自分が理解している範囲外のことはできないわけで。

TONZAKO デザインでは、クリエイターが集まり、自分が想像もし得ない可能性が広がっている、色々なことができる、それが魅力です。

家族だからといって全てを強要しない、知ろうとしない。

家族は妻と4人の子ども達がいいます。2年前に倒れて以来、妻は「もっと体を気遣って」と心配してくれますが、睡眠時間を確保するのは難しいですね（笑）。上の子は中学生です。この前、僕の



Copyright © 株式会社 TONZAKO デザイン All Rights Reserved

職場見学に来ました。感想を聞いてみると「楽しそうに見えなかった」。仕事中はピリピリしますからね。子どもが思い描いていたような楽しい働き方じゃなかったみたい（笑）。

父の職場見学に訪れたことがあります。それもすっかり大人になってから。父の定年間近でした。父の職場を見る機会なんて、なかなかありませんからね。これからも子ども達に職場を見せられるといいなと思います。

家族だって個人と個人です。だから価値観を強要しない。子どもに対しては、自分で考える、個性を大切にしたい。人に対する道徳が一番大事。勉強は最低限でも、独創性のある子に。そんな風に思っているけど、実際はなかなか難しいですね。

10年後も相変わらずやっていることは同じ

継続することに尊さを感じます。10年後の僕は52歳。その時も今の仕事を継続したい。やっていることは同じでも会社は大きくなり、人との繋がりはぐっと広がり、仕事のスケールもアップしていて……、そんな10年後を想像しています。そのためには継続できる体制を作らないとね。2倍の忙しさになると、誰かの身体が壊れてしまう。個人事務所時代に倒れた経験から、続けることの尊さを実感します。今思えばあれは自分を変えるチャンスだったのかも。

今は人が動けない状況だけど、絶対に動き出す

今は人が動けない状況でも、いつか必ず人が動き出す時が来ます。去る人がいれば、何かを始めた人と来る人もいます。人が動けない今だから、企画や計画にじっくり取り込めるかもしれません。数々の災害を経て、人は必ず動き出しました。建築の世界では災害後に法律の見直しが行われ、使用部品の見直しが行われ、新しい建物が造られてきました。

動き出した時には、何かが以前と変わっている。だから次に何が来るかっていう事には敏感でいたいし、予め情報を集めておく必要があります。そんなことを TONZAKO デザインのメンバーで今話合っています。個人事務所時代はひとりで考え、決断するしかありませんでした。今はメンバーで考えられます。

色々な変化に対応できなきゃ、事業は長く持たないですよ。発想から物事は動いていくんだろなと思います。価値観が変化し、それに対応した施設が求められるというわけです。僕らは対応し続ける。そんな時代と思います。



取材：川北睦子